



ほほえみ 第56号

6月は梅雨らしくない晴れた日が多く、あっという間に7月となって夏本番となりました。当科では、福田先生が秋田大学に異動、秋田大学から井上先生が赴任され常勤医の異動の月となります。2015年も半分が過ぎ、折り返し点ですが、新たな気持ちで臨んでいきたいと思えます。

忙しい

今月は、予定の日までにニュースレターを発行するつもりであったのですが、福田先生の異動、井上先生の赴任のタイミングとなり、つつい発行が遅れてしまいました。何となく忙しく、文章を書く暇がなかったということの証左かと思えます。忙しいという言葉は、りっしん偏に亡と書くのだから、心が無い状態と説明されますが、最近の自分自身を振り返ると、正に「忙」であったかと思えます。今月は、この「忙しい」ということを取りあげてみたいと思えます。

がん哲外来では、「暇げな風貌、偉大なるお節介」と言って、暇ということを大切にします。忙しいの反対ですね。人間は暇でなければならないということです。しかし、世の中の的には、忙しい方が充実しているという見方もあります。どっちが本当なのでしょう。

忙しいときに、人間は何をしているか……、振り返ってみると、与えられた仕事をしているのです。収入を得る仕事であろうと、学校や町内会の世話であろうと、何らかの持ち場があって、それに集中する時に忙しいということになります。この忙しさというのが曲者であって、本当の自分であるかどうかは問われません。哲学では現存在という言葉を用いますが、自分自身の内面から生じたものというよりは、周囲の世界、社会との関わりにおいて存在している状態を言います。だから、充実しているようにみえて、外界との関わりに依存したもので、ふと我に返ると、空虚感を感じるのです。現存在は根本的に、ニヒリズムに通じると言えるかもしれません。

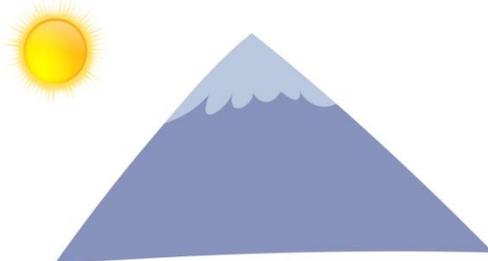
では、暇とは……。暇げな風貌の樋野先生に、暇になるにはどうしたら良いかお尋ねしたことがありますが、本当に重要なこと以外は(どうでもいいことは)、他人に任せれば良いということでした。どんどん、他人に任せると、人間、暇になるそうです。これは、現存在の在り方と逆の見方のものです。外界から与えられた、役割としての自分を脱ぎ捨てていくと、暇になる。暇なときに残ったものこそが、本当の自分ということでしょうか。

一方で、役割を捨てるということは、勇気が必要です。社会の中での役割を捨てることは、社会的な死を意味するように感じるのです。妙法蓮華経の第二十五品は観世音菩薩普門品というのですが、一般には観音経と呼ばれています。この中に、

須弥の峰に在りて、人の為に推し墮されんに彼の観音の力を念ずれば、日のごとくにして虚空に住せん。
(或在須弥峰 為人所推墜 念彼観音力 如日虚空住)

とあります。これは、人間社会の役割が峰を登るようなものであり、だんだんと重要な役割を担うようになることを山にたとえていられると思います。そして、いつかは後人から追われて虚空に投げ出されるものでもあることを思えば、この宿命から、すなわち忙から逃れることを言っているようですね。

忙しさにかまけずに、本当の存在を大切にしながら人生を過ごしたいと、心から思うのです。このくらい、書こうと思えば30分もかからないのに、忙とは恐ろしいですね。

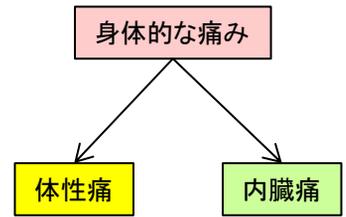


痛みについて

がんの症状の一つに痛みがあります。痛みというものは、実際には複雑なもので、身体の痛みや、心の痛み、スピリチュアル・ペインと呼ばれるものもあります。さらに、身体の痛みも、大きく二つに分類されます。

一つは、体性痛と言われるもので、筋肉痛や関節痛のように、場所がある程度はっきりしているものです。もう一つは、内臓痛という痛みで、鈍痛というか重苦しい痛みです。この二つの痛みに対しては、鎮痛薬の使い方に違いがあり、体性痛は、消炎鎮痛剤がよく使われますが、がんの痛みで多い内臓痛に対しては、オピオイド製剤と呼ばれる、モルヒネ系の鎮痛剤が有効とされています。

また、消炎鎮痛剤は、最大の投与量(極量)が限定されていますが、オピオイド製剤は、用量を上げて効果も頭打ちにならないと言われており、痛みの程度に合わせて増量することになっています。つまり、調節することが重要なのです。オピオイドを使うことに抵抗のある方もありますが、きちんとこの薬剤を使うことによって、症状の改善が得られる、リーズナブルな薬剤であり、十分に使っていただければと思います。



消炎鎮痛剤

消炎鎮痛剤
+
オピオイド製剤

さんさ踊りの練習

例年、この時期となると、何処からともなく「さんさ踊り」の練習らしい音が聞こえてきます。当院も例年さんさ踊りに出場しており、私も参加しています。笛か踊りをしていますが、何年たっても初心者の気持ちで列に加わっています。何せ、次の年になると、去年の練習の内容はすっかり忘れてしまっていて、さらに、浴衣の帯や襷の掛け方、五色の付け方など、資料を見ながらなので、まったくサマになりません。

今年は福来踊りなのですが、これが3番や2番となると、何年前にやったのか思い出せないくらい状態であり、子供のころから行っていたものと違って、本当に付け焼刃的です。ミスさんさチームの踊りを見ると、素晴らしいとは思いますが、一流になるには、子供のころからやっていないと無理ですね。



MEMO

7月のがん化学療法科の予定

- 7月10日 柴田教授外来
- 7月11日 東北臨床腫瘍セミナー(仙台)
- 7月16日 - 18日 日本臨床腫瘍学会(札幌)
- 7月20日 海の日
- 7月24日 柴田教授外来
新渡戸稲造記念メディカル・カフェ(予定)

